

平成29年度 事務事業評価シート

事務事業名	東京藝術大学との連携					所管	文化産業観光部 文化振興課	
	行政計画	事業NO.	62	計画事業名	東京藝術大学との地域連携事業の推進	事業の開始・終了年度		
長期総合計画体系	[基本目標] I-3. 文化が息づく豊かな生活の創出					[事業開始] 平成20年度		
	[小 柱] (4)文化に親しむ環境づくり					[終了予定] - 年度		
根拠法令等	その他	[法令等名]	東京都台東区と国立大学法人東京藝術大学との連携に関する協定書					
事業対象	東京藝術大学及び区民をはじめ広く一般							
事業目的	東京藝術大学の有する芸術・文化に関する高度な知見を活用し連携事業を展開することで、地域社会の芸術、文化、教育、まちづくり、産業等の広範な分野の振興を図る。							
事業内容	台東区・東京藝術大学連携協議会を開催し、連携事業の推進を図る。 平成22年度から平成24年度に実施したGTS観光アートプロジェクト作品を管理する。 また、GTS観光アートを巡るフォトラリーやワークショップを実施して、GTS観光アートをPRするとともに、区民が芸術・文化に触れる機会を提供する。							
委託の有無	一部委託	委託内容	GTS作品の清掃及び保守点検委託。PRイベント参加記念品の制作委託。ワークショップ実施委託。GTSパネル展委託。					
補助金の有無	なし							
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (30年度)	26年度	27年度	28年度	
	活動指標	GTS観光アートラインPR事業	回	3	3	3	3	
	成果指標	GTS観光アートラインPR事業参加者数	人	1,000	727	1,171	494	
	決算額 (単位：千円)					3,421	3,146	3,324
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト(人件費など)				3,401	3,208	7,134
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)				3,421	3,147	3,324
		その他のコスト(扶助費・補助費など)				0	0	0
		総経費				6,822	6,355	10,458
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)				0	0	0
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)				0	0	0
一般財源(区負担額)				6,822	6,355	10,458		
前回評価から改善した事項	区内在住・在学の小学生を対象に実施したGTSワークショップでは、定員40名を大きく上回る184名の応募があった。講師を平成27年度の4人から12人に増やし、児童が東京藝術大学の教員や学生から直接指導を受けられる環境を整備した。							
評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	3	地域社会の芸術、文化、教育、まちづくり、産業の振興を図っていくためには、芸術・文化に関する高度な知見を有する東京藝術大学と区が直接連携していくことが必要である。					
	効率性	3	平成28年度はGTS作品の木材保護塗装の実施により、決算額は前年度に比べて上昇したが、今後も適切に作品を維持管理していく必要がある。また、区と東京藝術大学とが芸術・文化に関わる幅広い活動の協議をする場である連携協議会の開催は、区政の様々な分野の振興を図るうえで有意義である。					
	手段の適切性	3	区の様々な分野での芸術・文化の振興を図るため、各所管課で実施している文化事業及び東京藝術大学との連携事業を集約し、連携協議会で協議するなど、東京藝術大学の芸術・文化に関する高度な知見を活用することは効果的である。					
	目的達成度	3	GTS観光アートラインPR事業参加者が目標値には届かなかったものの、参加者からは高評価を得ている。今後もより一層のPRに努めていく。					
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	維持 拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了	
区民が芸術・文化に触れる機会を提供できるよう、GTS環境アート作品の管理・PR事業を継続して実施していくことが必要である。また、今後も連携協議会の場を有効に活用し、旧奏楽堂リニューアルオープン、音楽部門の区長賞設定、障害者アーツ、オリパラに向けた事業等で、東京藝術大学の有する芸術・文化に関する高度な知見を活かした連携事業を実施していく。								